

予防鍼灸研究会（SGPAM）

## 第 10 回定例会抄録

テーマ：免疫力と健康

2022年6月26日

## 目次

コロナ後遺症を想定したソフト指圧(実技供覧) .....	金子武良	2
お灸治療の実際と免疫系への作用 .....	三村直巳	3

## コロナ後遺症を想定したソフト指圧(実技供覧)

金子指圧治療院 金子武良

「抄録」 コロナ後遺症に悩む方が急増している。西洋医学的に対応するも治療に難航する例も多い。当院では、数名のコロナ後遺症患者に対して、ソフト指圧で施術しているが、今回は、経験した1例を紹介すると共に、実技をモデル例で供覧する。

**症例：**コロナ後遺症 20代女性（学生）。主訴：右肩甲骨下縁の引き攣れ。

**経過：**コロナ感染前の2021年11月3日に右足首の捻挫で受診。その後、11月28日に、コロナ感染症が判明、宿泊療養する。重症化せず8日後帰宅。しかし、嗅覚消失、易疲労、右肩甲骨下縁の違和感などの後遺症が残った。2022年1月28日当院受診。

**東洋医学的現症と施術：**1診目、感染後（86日目）、全身の冷え。特に冷えの強い右肩甲骨内縁に黒ずみ。緊張が強かったためソフト指圧で施術。全身の冷えは改善し、黒ずみ消失。2診目（120日目）、右肩甲骨周囲の痛み改善、嗅覚も戻る。3診目（183日目）、右肩甲骨周囲痛消失。

**結果：**手掌を使って響きと波動を与え、右肩甲骨周囲痛は改善し、呼吸は深くなり、冷えが軽快した。

**結論：**ソフト指圧はコロナ後遺症の治療に対して有効であると考えられる。

**【実技供覧\*】**今回はモデルにて、術前後の変化を示す。顔の浮腫が取れて、脊柱の湾曲が改善し、胸郭の動きが良くなった。本人は「身体が温かくなり、これまで気づかなかった自分の身体を感じることができました。これはきっと免疫力にも良い影響があると思いました」。 (\*会員エリアのYou Tube 参照)

(文字数 600 字)

## お灸治療の実際と免疫系への作用

東京医療専門学校 鍼灸師・医学博士 三村直巳

「抄録」灸は、艾を捻って皮膚上に置き、線香で点火して燃焼させ、体表に温熱刺激を与える治療法である。

灸治療の特性としては、鍼治療と比べて効果は緩慢だが、継続して行うことで持続作用が得られ、時には難病でも治癒に導くことがある。

鍼治療が主に神経系に作用して神経反射などを利用する治療法なのであるのに対して、灸治療は主に体液性に作用して、免疫調整作用などに優れているためと考えられる。

灸治療の免疫系に及ぼす影響については、私が昭和大学医学部生理学講座（旧：第一生理学教室）にて行った研究について紹介する。

ヒト関節リウマチの動物モデルとして汎用されているマウスコラーゲン関節炎に対して施灸の効果を調べた。マウスに関節軟骨の成分であるⅡ型コラーゲンを免疫すると、4週目くらいよりマウスの足趾や足関節に関節炎が発症する。

このマウスに免疫後3週目から施灸（1mg 艾炷×5 壯、命門穴）を週に3回、2週間行くと、統計学的に有意に発症率が低下しました。また、発症したマウスの関節炎の程度を関節炎スコアにて肉眼的に評価したところ、施灸群ではスコアの有意な低下が認められた。また、その群では免疫抑制性に作用する制御性T細胞の増加が確認され、施灸による関節炎の抑制効果にこの細胞が関与していることが推測された。

以上から、施灸は免疫力が過剰に起こっている状態の時にはそれを抑制する作用があることが分かった。「灸は免疫力を高める」と一般的に考えられているが、厳密には、免疫力が低下している時には高めて、自己免疫疾患などのように免疫の過剰状態のときにはそれを抑制する作用、すなわち免疫力を調節する作用があることが分かった。また、発症前に施灸をしておくことで、予防効果があることが分かった。

当日は、灸治療の実際について概説し、諸先生方の論文も引用させて頂きながら免疫系への作用について考察をしたいと考えております。